

平成30年度第2回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成30年11月15日（木）14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、佐野委員、バンダイナムコスタジオ、FUJITSU エンバーシティ
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. 起業学修モデルについて以下のような説明、意見があった。

- ・ 学修モデルの構成は、①企業に向けた準備、②企業方法の概要、③クラウドファンディングを利用したオープン型起業実習PBLとして案が提示された。
- ・ ①、②は知識修得で3コマ程度の時間とし、③を学修の中心と考えている。
- ・ 企業は、知識不足のところを補う範囲をし、成功・失敗に関わるアドバイスは行わない。
- ・ 学修の場は、IoT空間のWeb会議などネット上で行い、学生の自主性を図る。
- ・ 産官の企業・地域社会からの問題など、さまざまな分野の学生が参加し、情報の範囲に限らない幅広い問題を考えることにしている。
- ・ 異分野のチームは、IoT空間で必要な情報を収集・活用する。また、学生が社会の役に立ちたいことに気付かせる工夫が必要。例えば、コンテスト形式で異分野の学生で複合的な学びの仕組みができないか。その中に企業のリカレント学生も参加すればマインドも高まるのではないか。
- ・ 参加は、意欲、関心、しっかりした心構えのある学生に限定する必要がある。
- ・ 学修モデルは、15コマ科目に限定するのではなく、1年生から参加でき、長期間のPBLとしての学び、イノベーションに関して改善・改良型の取り組みとしても考えられる。

2. PBL実践についてアドバイザーから以下のような報告があった。

- ・ PBLを行う前の準備が大切で、ファシリテータ約の作業量が多い。
- ・ テーマ設定で考える要素としては、テーマを決定するのはだれか、顧客は存在するのか、問題発見・解決計画・実施・検証などお範囲を行うのか、学修目標に適合したテーマなのかなど検討を必要とする。
- ・ 指導体制としては、ファシリテータを束ねるPBL常勤の教員が必要となり、教員の多様性やPBLメンバーの理解、チーム編成、知財などの課題が考えられる。

3. 起業学修モデルの詳細設計に向けて以下のような意見があった。

- ・ PBLのテーマは、社会課題、日常課題などで、例えば、食品ロスの問題等で主体的に自分の課題として取り組ませられることではどうか。また、松竹梅、水準の問題も考えたい。
- ・ 学修の場には、対面形式もIoT空間の中として、どこかに組み込みことはできないか。
- ・ 企業が指導チームに人を出すメリットは、高度な人材の育成や優秀な人材の確保などが考えられる。
- ・ PBLを上手く進めるためのノウハウの提示が必要ではないか、ファシリテータの仕方などのポイントを示す必要があるのではないか。また、モデルを進める中で、このような条件が整っていないと、などの課題を記述する必要があるのではないか。

V. 今後のスケジュール

次回の委員会は12月20日に開催し、起業学修モデルの構成内容・詳細設計を引き続き検討することになっている。